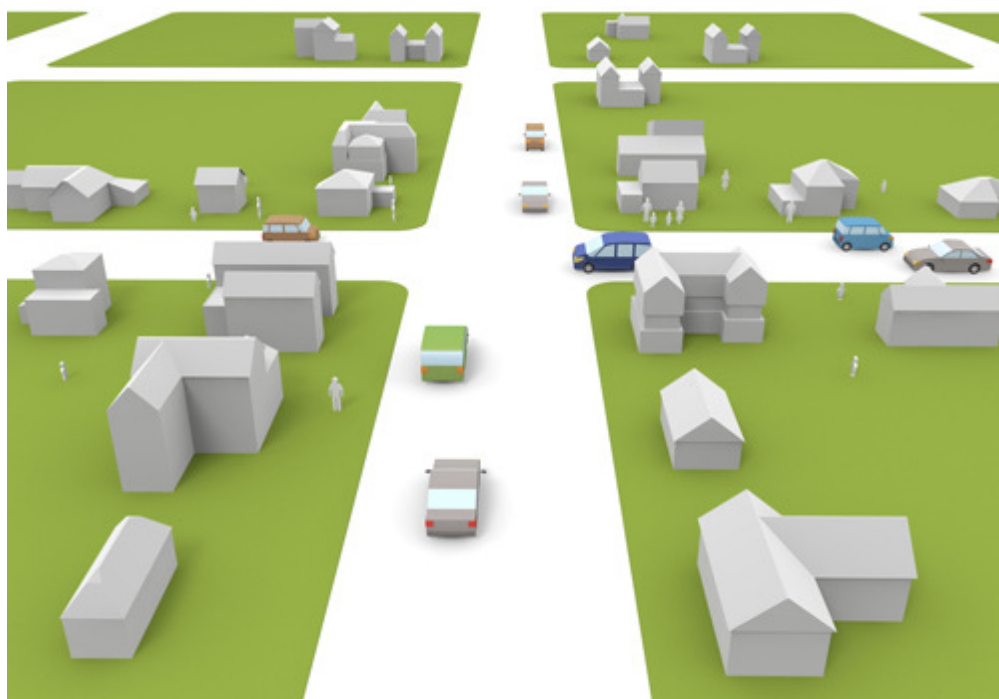


わくわく
ハコモノ探訪プロジェクト

橋本市公共施設の現状と今後



平成25年12月

HMP48

「ハコモノ わくわく探訪プロジェクト」

目次

はじめに	3
I. 公共施設をとりまく現状と将来	
1. 公共施設の現状	4
2. 人口の推移	7
3. 財政の状況	8
4. 公共施設の更新費用推計	10
5. 橋本市公共施設マネジメント基本方針	12
II. 公共施設マネジメントの具体例	
6. 先進地視察	18
7. 橋本市における学校の複合化案	24
8. 橋本市における市営住宅のソフト化案	32
III. まとめ	35

はじめに

HMP 48「ハコモノ わくわく探訪プロジェクト」は、橋本市の今後の公共施設のあり方を考え、橋本市の公共施設の未来を描こうと始めました。

私たちは、まず橋本市の公共施設の現状把握しようと、公共施設の分布を示す地図を作成したり、対象とする全施設を訪問したりしました。その結果、老朽化している公共施設が多くを占め、改修や建替が必要な建物がたくさんあることを実感しました。

その後、各種データの分析、知識の習得及び将来の推計をしていきましたが、ここで明らかになったのは、現状の公共施設を現状の数のまま維持し続けることは不可能であるということです。詳しくは後述しますが、計画的に公共施設マネジメントを実施しなければ、財政崩壊やインフラ崩壊といった事態が現実のものになるかも知れません。

そこで、私たちは、これから市が取るべき公共施設マネジメントの方針を提言として本書にまとめました。先進地視察や橋本市での施設の複合化等の案も掲載していますので、参考にしていただければ幸いです。

I. 公共施設をとりまく現状と将来

1. 公共施設の現状

(1) 対象施設

今回のプロジェクトで対象とした施設は、行政財産のうち、道路・上下水道や公園などのインフラ施設を除いた建物を伴う公共施設です。

当プロジェクトチームでは、公共施設の今後を考えるにあたって、まず現状を把握するため、公共施設の分布を示す地図を作成しました。

そして、これらの建物すべての現地調査を実施し、「探訪シート」を作成しました。

【対象施設】

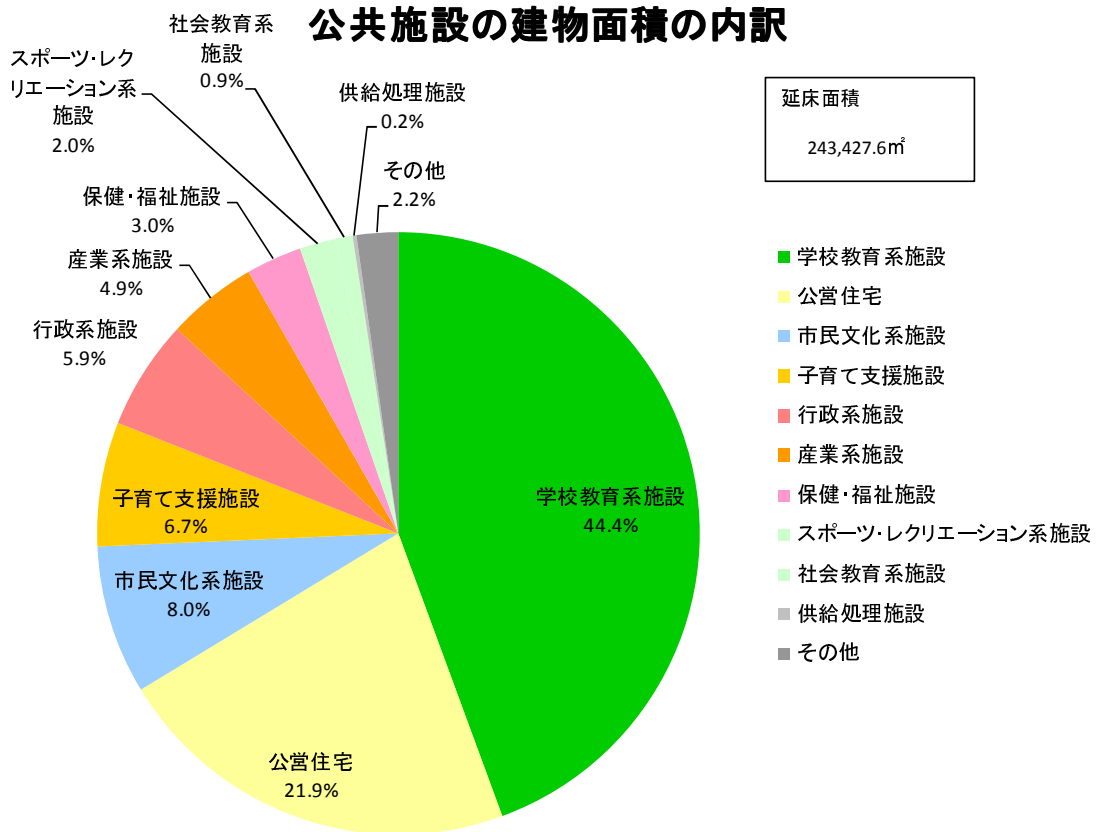
分類	施設数	延床面積 (㎡)	主な施設
行政系施設	15	14,352.06	本庁舎、西別館、北別館、消防本部、北消防署、防災センター(8)等
市民文化系施設	30	19,454.96	市民会館、公民館(9)、文化センター(4)等
学校教育系施設	28	108,055.58	小学校(15)、中学校(7)、給食センター(2)、教育相談センター等
公営住宅	36	53,378.91	市営住宅(36)
保健・福祉施設	5	7,279.55	保健福祉センター、たんぼぼ園等
子育て支援施設	28	16,216.14	保育園(10)、こども園(2)、幼稚園(7)、児童館(9)
供給処理施設	1	499.99	環境美化センター
産業系施設	19	11,807.49	エコパーク「紀望の里」、やどり温泉「いやしの湯」、産業文化会館等
社会教育系施設	3	2,216.00	図書館、郷土資料館、あさもよし歴史館
スポーツ・レクリエーション系施設	4	4,758.14	学文路スポーツセンター、伏原体育館等
その他	5	5,408.79	斎場(2)、林間田園都市駐輪場等
合計	174	243,427.61	

- ・平成25年4月1日現在に存在する施設を対象としました。
- ・また、普通会計の建物を対象とし、市民病院や水道施設は除いています。

(2) 建物延床面積の内訳

橋本市が保有する上記対象施設の建物延床面積の合計は、約24万3千㎡です。

施設別の割合では、学校教育施設が約44%、公営住宅施設が約22%、市民文化系施設が8%、子育て支援施設が約7%となっています。



■参考：全国自治体公共施設延床面積データ（東洋大学PPP研究センター）

人口規模別人口一人当たりの延床面積（㎡/人）

人口規模	対象自治体数	データ把握数	平均値	最大値	最小値
90～100千人	31	27	4.08	6.60	2.04
80～90千人	46	39	3.40	6.16	1.71
70～80千人	40	31	3.43	6.25	1.70
65～70千人	35	32	3.39	5.97	1.64

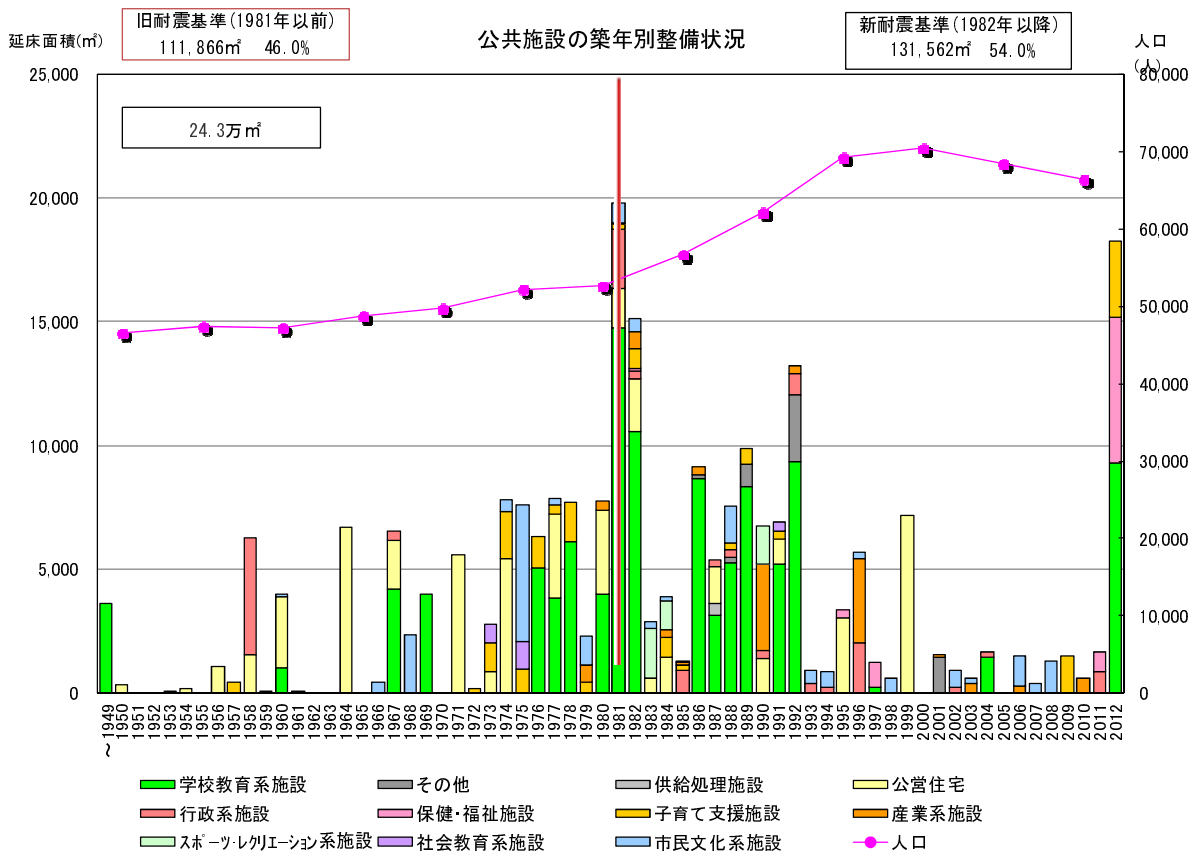
橋本市：3.81㎡/人

※データ時点 2012年3月

(3) 築年別整備状況

下記グラフは、橋本市が保有する公共施設の延床面積を建築年別に表記したものです。現在本市が保有する建物は、人口増加が進んだ昭和50年代から60年代にかけて、学校教育系施設を中心として建設されたものが多くを占めていることが分かります。

また、経過年数を見ると建築後30年以上経過した建物が全体の46%を占めており、今後大規模な改修や建て替えが必要となることが予想されます。

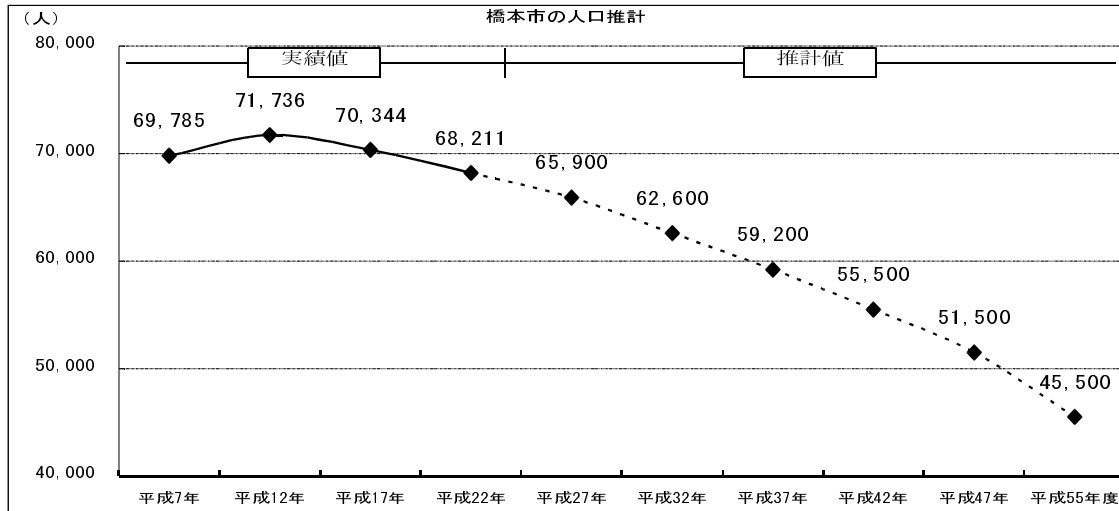


- ・ 全体の46%が一般的に大規模改修が必要とされる建築後30年を経過している。
- ・ 小中学校でみると、大規模改修済みの建物は高野口小学校のみ。隅田小学校は現在大規模改修中。残りの小中学校は未施工。

2. 人口の推移

(1) 人口の推移

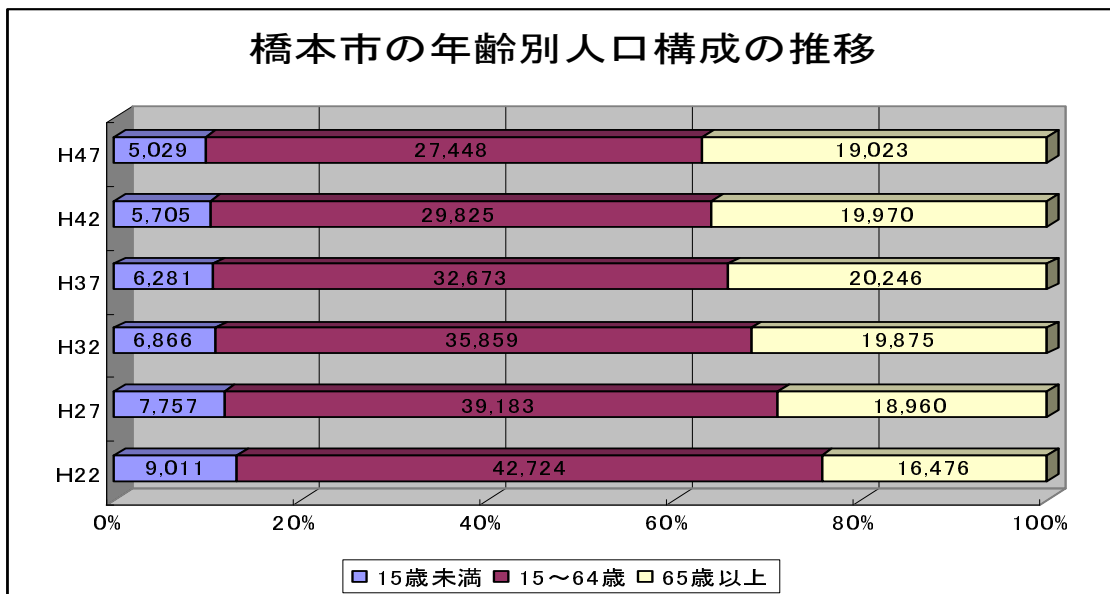
本市の人口は平成12年度を境に減少に転じました。将来人口推計によると、今後も減少が続き平成55年には45,500人になります。これは平成25年度に比べ約31.6%減少することになります。



(2) 年齢別人口構成

本市の人口（平成22年4月1日、住民基本台帳人口）は0～14歳の人口割合が13.2%、15～64歳の人口割合が62.6%、65歳以上の人口割合が24.2%となっています。

65歳以上の人口割合は上昇を続けており、将来推計人口によると平成47年には36.9%になると予想されています。



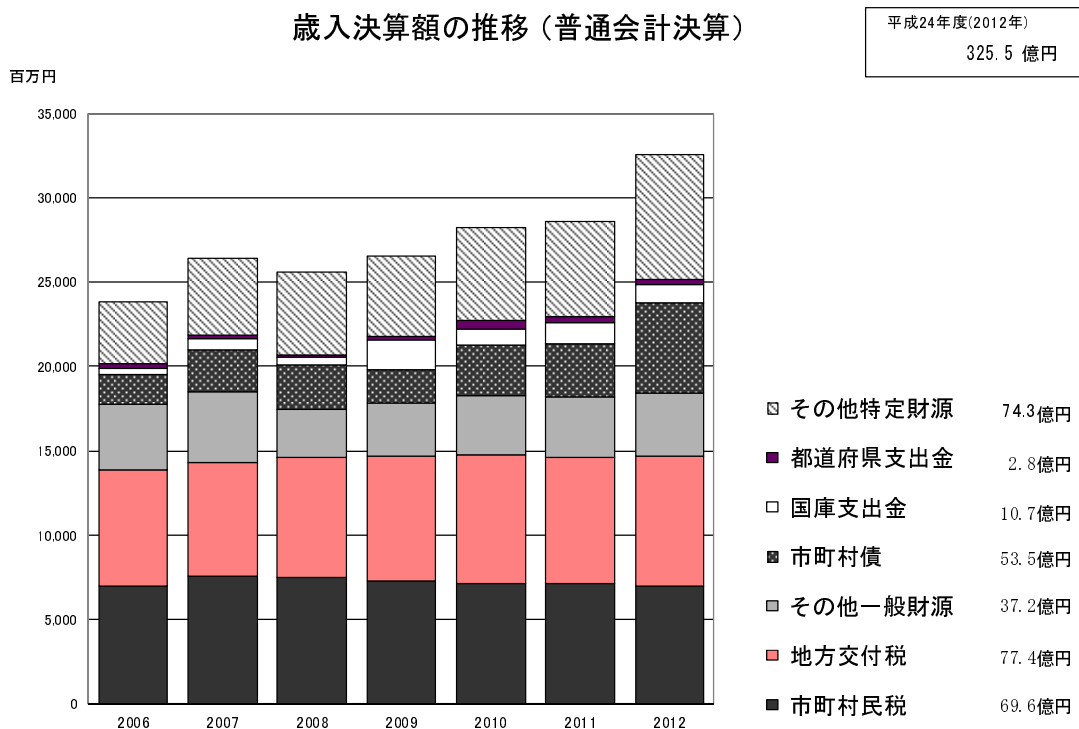
3. 財政の状況

(1) 近年の財政状況

普通会計における歳入決算額は、平成24年度に325億5千万円の計上となっています。そのうち、自主財源である市税収入が占める割合は21.4%しかなく、地方交付税や国・県支出金などの依存財源によりまかなっている状況です。今後も少子高齢化や人口減少に伴い市税収入の増加は期待できない中、地方交付税についても、合併による算定方法の特例期間の終了により、平成28年度以降、段階的に減額されるため、収支不足が懸念されます。

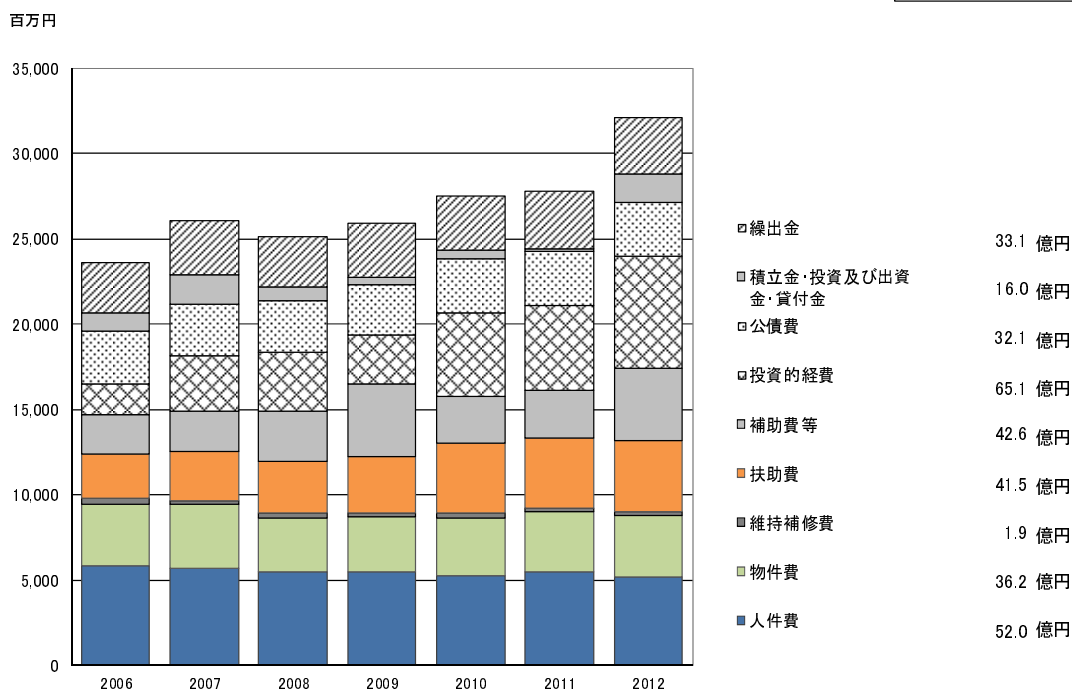
また、歳出決算額は、平成24年度に320億6千万円の計上となっています。人件費については、定員適正化計画に基づく新規採用者の抑制により減少傾向にありますが、小中学校耐震化事業や保健福祉センター建設事業などの大型公共事業が集中したことによる投資的経費の増加、高齢化の進展に伴う社会保障関係経費の増加により扶助費についても増加しています。

歳入決算額の推移（普通会計決算）



歳出決算額の推移（普通会計決算）

平成24年度(2012年)
320.6 億円



(2) 今後の見込み

「橋本市中期財政計画」によると、歳入の根幹となる市税については、法人市民税の増加は期待できるものの、高齢化や人口減少に伴う個人市民税と地価下落による固定資産税の減収は避けられないとみています。また、平成26年度より消費税率の引き上げで交付金が増加しますが、一方では物件費が上るため、社会保障費用への充当と併せた支出と相殺されるとみています。

一方、地方交付税は、合併特例債等の公費分が増えていくため平成27年度までは増加していきませんが、平成28年度より普通交付税が一本算定へ段階的に切り替わっていくため徐々に減少し、平成33年度以降では合併算定替での交付と比較して、約6億円の減になると見込まれています。

このように、活用できる財源が限られてくることから、運営・維持管理経費の抑制を図るとともに、計画的な保全整備を行うことにより施設を長期的に使用し、将来的に発生する施設更新費用の抑制と財政負担の平準化が重要課題となっています。